



全日本 MTB 選手権・XCO 男子エリートのスタート

シクリスムエコー No.172 2010 年 8 月号



第23回全日本MTB選手権大会 DHI ..... 2



第23回全日本MTB選手権大会 4X ..... 3



第23回全日本MTB選手権大会 XCO ..... 4  
 ロンドン・オリンピック参加資格取得について ..... 6  
 各大会日本代表選手団 ..... 7

ツール・ド・ラビティビ 2010 ..... 8  
 平成 22 年度全国高等学校総合体育大会 ..... 10



2010 UCI BMX 世界選手権大会 ..... 12  
 競技大会結果 ..... 13  
 強化指定選手等の追加 ..... 13  
 加盟団体だより (7) / 各大会日本代表選手団 ..... 14  
 国内自転車競技場の紹介 (その 7) ..... 15  
 連盟の動き ..... 15  
 全日本 MTB 選手権 PHOTO ..... 16



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

# 第23回全日本MTB選手権大会



## Downhill



DHI 男子エリート優勝の安達

7月17日から19日、長野の富士見パノラマスキー場に於いて、第23回全日本MTB選手権大会が、一般ライダー参加の富士見パノラマカップと並行して開催された。レース中は概ね好天に恵まれ、日差しが肌に痛い3日間であった。(16日にはDHIのタイムドセンションが行われた)

初日はダウンヒルが行われ、まず男女エリートの予選から開始された。女子はこの大会11連覇がかかる末政が順当に首位をキープ、男子は永田が微差でトップタイムを出した。

その後、マスターとジュニアの決勝が行われ、マスターは昨年度チャンピオンの三山が優勝、ジュニアは井本が勝利をものにした。

そしていよいよ女子決勝、末政が圧倒的な強さで11連覇を達成。男子は予選順位を逆転して、安達が見事優勝した。

2日目は午後からフォークロスが行われ、予選タイムトライアルで、女子6人と男子21人の決勝ラウンド組合せが決定した。

昨年の女子チャンピオンの末政は順当に勝ち進み、昨日のダウンヒルに続いての2冠目を獲得。また男子は永田が前日のダウンヒルと正反対に、予選2位から見事に優勝し、昨年に続いての勝利となった。フィニッシュ直後に行われた表彰式は選手・観客共にレースの感動が途切れず、またスピーディで好感が持てる。

最終日はクロスカントリーの5クラスを1日かけて行われた。まず、ジュニアとマスターがスタートし、それぞれジュニアは山本兆、マスターは小田島が優勝した。

次にU23と女子がスタート。この2クラスはいずれもすぐに独走態勢となり、それぞれ、竹之内と片山が圧倒的な力でチャンピオンとなった。これで、片山は全日本7連覇となった。

いよいよ最終クラスの男子エリート。昨年・一昨年のチャンピオンであり、今大会大本命の山本幸平がスタートからグイグイ踏んでいく。そして1周目のバックストレートに現れたのは3名の集団。先頭は昨年U23チャンピオンのBS平野、そして山本、武井と続く。しかし2周目に入ると予想通り山本の独壇場。2位以下は目まぐるしく変わって行く。

途中からサングラスを外した山本の顔は、何かに取り憑かれたような必死の形相で、ただひたすらゴールを目指していた。しかしチェッカーフラッグをうけた瞬間、色々な想いが蘇ったのか、目に涙を浮かべ、くしゃくしゃな顔になっていた。そして全てを使い切ったのであろう、その場に完全に倒れ込んでしまった。感動的なシーンであった。そして1・2・4位をBSが独占する中、TREKの松本が健闘し3位入賞を果たした。

DHI 女子エリート優勝の末政



DHI 男子ジュニア優勝の井本



DHI 男子マスター優勝の三山

# Four Cross



4X 女子優勝の未政



4X 男子優勝の永田 (FINAL)

【競技結果】

第23回全日本マウンテンバイク選手権大会  
(2010/7/16-19 長野・富士見パノラマ)

DHI 男子エリート (7/16-17)

- 1 安達 靖 愛知 Ikuzawa 4:25.238
- 2 永田 隼也 神奈川 A&F 4:28.353
- 3 青木 卓也 東京 GIANT 4:28.398
- 4 井手川直樹 埼玉 EVIL 4:29.616
- 5 内嶋 亮 東京 DYNOCO 4:34.314
- 6 九島 賛汰 神奈川 KHS 4:34.446
- 7 浅野 善亮 愛知 Hott Spin 4:37.826
- 8 金子 真吾 長野 Transition 4:38.089
- 9 小山 航 長野 Transition 4:38.150
- 10 大島 礼治 兵庫 RAGE69 4:44.814

DHI 女子エリート (7/16-17)

- 1 末政 実緒 兵庫 Funfancy 5:06.968
- 2 中村 美佳 福井 MSC 5:44.068
- 3 飯塚 朋子 東京 corratec 5:50.213
- 4 服部 良子 神奈川 風魔横浜 6:09.752
- 5 宮下 瑠衣 兵庫 6:14.830
- 6 中川 弘佳 大阪 輪娛ロト 6:17.806
- 7 田崎 綾 千葉 BATAVIA 6:33.515
- 8 小林可奈子 長野 AKI Fact. 6:45.582
- 9 安達 勅実 埼玉 FUST 6:49.618

DHI 男子ジュニア (7/16-17)

- 1 井本はじめ 兵庫 Transition 4:33.105
- 2 清水 一輝 愛知 AKI Fact. 4:40.584
- 3 九島 勇氣 神奈川 KHS 4:45.748
- 4 下垣 大樹 大阪 FK170 5:25.844
- 5 安藤 拓希 神奈川 GROVE 6:00.425
- 6 田部井雅弘 群馬 重力技研 6:42.583

DHI 男子マスター (7/16-17)

- 1 三山 孝幸 石川 FRS 4:56.193
- 2 伊藤 康喜 東京 KIRIN 5:08.966
- 3 戸田 尚哉 滋賀 チーム近江牛 5:09.468
- 4 白井 了史 神奈川 MARSH 5:12.630
- 5 望月 克彦 静岡 KIDS 5:12.754
- 6 松田 敦司 神奈川 MARSH 5:13.909
- 7 山田 貴之 静岡 LIFE 5:16.181
- 8 宮本 光司 茨城 FLEX 5:17.587
- 9 山田 基史 愛知 王様ゲーム 5:21.528
- 10 山口 弘貴 岐阜 シズテック 5:21.666

4X 男子 (7/18)

- 1 永田 隼也 神奈川 A&F/Rocky Mount.
- 2 九島 賛汰 神奈川 KHS/ 重力技研
- 3 宮本祐太郎 神奈川 BLKMRKT
- 4 栗瀬 裕太 長野 QUAMEN BIKES
- 5 高山 一成 埼玉 TroyLeeDesigns
- 6 九島 勇氣 神奈川 KHS/ 重力技研
- 7 増田 直樹 滋賀 DTP
- 8 清水 一輝 愛知 AKI Factory Team
- 9 井本はじめ 兵庫 Team Transition
- 10 渡辺 勇大 神奈川 Charge Bikes

4X 女子 (7/18)

- 1 末政 実緒 兵庫 FUNFANCY
- 2 飯塚 朋子 東京 team corratec
- 3 服部 良子 神奈川 風魔横浜
- 4 安達 勅実 埼玉 FUST
- 5 中川 弘佳 大阪 輪娛ロト
- 6 小林可奈子 長野 AKI Factory Team





XCO 男子ジュニアのスタート  
#501 が優勝の山本



XCO 男子 U23 優勝の竹之内



XCO 女子エリート優勝の片山

- 3 西田 尚平 北海道 滝川高校 1:19:51.99
- 4 竹本 颯太 愛媛 BSC 1:25:31.29
- 5 安川 生 熊本 八代農高 1:26:54.15
- 6 小野 貴澄 兵庫 KCCT-Racing -1lap
- 7 関 翔太 東京 club flatout -2laps

**XCO 女子U23 (22.75 km) (7/19)**

- 1 片山 梨絵 神奈川 Specialized 1:33:12.19
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:38:17.94
- 3 矢沢みつみ 山梨 1:38:57.35
- 4 田近 郁美 岐阜 God Hill 1:40:45.05
- 5 小林可奈子 長野 AKI Fact 1:49:24.49
- 6 福本 千佳 大阪 ReadyGoJ 1:50:48.54
- 7 原田 彩子 東京 Team FITTE -1lap
- 8 西尾 美子 香川 焼鳥山鳥 R -1lap
- 9 高橋 奈美 宮城 SEKI みちのく -1lap
- 10 若出 愛未 愛知 club SY-Nak -1lap

**XCO 男子マスタ (18.2km) (7/19)**

- 1 小田島貴弘 神奈川 SY-Nak 1:10:29.06
- 2 山本 朋貴 大阪 ストラダ R1:11:36.02
- 3 船岡 洋 兵庫 tacurino 1:12:03.31
- 4 北島 篤志 東京 c-kiRin 1:12:19.14
- 5 三上 和志 埼玉 CC3UP 1:12:19.63
- 6 澤田 泰征 神奈川 VOLCA 1:13:32.06
- 7 鎌木 裕 神奈川 轡屋 1:13:48.69
- 8 村田 隆 長野 快レーシング 1:14:02.44
- 9 赤塚 剛司 三重 Mt.Hase 1:14:16.21
- 10 竹田 佳行 埼玉 kei's p. 1:14:29.98

**【競技結果】**

**第23回全日本マウンテンバイク選手権大会  
(2010/7/16-19 長野・富士見パノラマ)**

**XCO 男子U23 (27.3km) (7/19)**

- 1 山本 幸平 北海道 BS アンカー 2:05:11.69
- 2 平野 星矢 長野 BS アンカー 2:08:30.23
- 3 松本 駿 長野 TREK 2:13:14.18
- 4 辻浦 圭一 長野 BS アンカー 2:14:44.43
- 5 武井 亨介 茨城 フォルツァ! 2:15:51.79
- 6 門田 基志 愛媛 GIANT 2:16:21.97
- 7 小野寺 健 京都 Subaru 2:18:15.29
- 8 江下健太郎 長野 over-do -1lap
- 9 山本 和弘 東京 キャノンボール -1lap
- 10 佐藤 誠示 埼玉 - -2laps

**XCO 男子U23 (27.3km) (7/19)**

- 1 竹之内 悠 京都 Eurasia 1:40:45.64
- 2 合田 啓祐 長野 Specialized 1:44:59.04
- 3 日野林昂志郎 愛媛 H・S・F 1:45:32.95
- 4 山田 主 長野 GEAX 1:50:00.36
- 5 野田 拓司 佐賀 福砂屋 1:51:08.36
- 6 長里 雅也 愛知 自転車村 1:54:10.48
- 7 西岡 亮祐 愛媛 H・S・F 1:57:09.23
- 8 間瀬 貴行 神奈川 C-kirin.com -1lap
- 9 園部 来夢 東京 RMB -1lap
- 10 横澤 太 茨城 Bumpy Path -1lap

**XCO 男子ジュニア (18.2km) (7/19)**

- 1 山本 兆 北海道 タンガリー 1:12:53.40
- 2 後呂 有哉 愛知 CA 材パ 1:15:14.54

## ロンドン・オリンピック参加資格取得について

以下の内容は、2010年5月・6月に国際自転車競技連合(UCI)から発表されたものを、翻訳抜粋したものです。詳しくは、UCI サイトおよびJCF サイトのロンドン五輪オリンピック参加資格制度をご覧ください。

**[ロードレース]** 総数 212 名 (当該年中に達する年齢: 19 歳以上)

**<マストスタート>** 総数 212 名

■ 男子 (1 カ国あたり最多 5 名、但し UCI ランキング以外で参加資格を得た場合は最多 1 名)

- ① 2011 ワールド国ランキング 1~10 位 × 各 5 名、11~15 位 × 各 4 名 計 70 名  
 ② 2011 アジアツアー国ランキング 1 位 × 各 3 名、2~4 位 × 各 2 名 計 9 名  
 ③ 2011 アジアツアー以外の国ランキング 計 60 名  
 ④ 2011 アジア・アフリカ・アメリカ選手権 1~2 位 × 各 1 名 計 6 名 合計 145 名

※ 2011 最終ワールド個人ランキングに競技者がいる場合 1 枠付与  
 2011 最終アジア個人ツアーランキング 10 位までに競技者がいる場合 1 枠付与  
 ただし、総合計数を尊重するためにワールド国ランキングの逆順に削減される

□ 女子 (1 カ国あたり最多 4 名、但し UCI ランキング以外で参加資格を得た場合は最多 1 名)

- ① 2012/5/31 ワールド国ランキング 1~5 位 × 各 4 名、6~13 位 × 各 3 名、14~23 位 × 各 2 名 計 64 名  
 ② 2012/5/31 以前の直近のアジア・アフリカ・アメリカ選手権 1 位 × 各 1 名 計 3 名 合計 67 名

※ 2011 最終ワールド個人ランキング 100 位までに競技者がいる場合 1 枠付与  
 ただし、総合計数を尊重するためにワールド国ランキングの逆順に削減される

**<タイムトライアル>** 総数 65 名 (マストスタート出場者に限る)

■ 男子 (1 カ国あたり最多 1 名)

- ① TT ワールド国ランキング 1~15 位 × 各 1 名 計 15 名  
 ② 2011 アジアツアー国ランキング 1~2 位 × 各 1 名 計 2 名  
 ③ 2011 アジアツアー以外の国ランキング 計 13 名  
 ④ 2011 世界選手権エリート個人 TT 1~10 位 × 各 1 名 計 10 名 合計 40 名

□ 女子 (1 カ国あたり最多 1 名)

- ① 2012/5/31 ワールド国ランキング 1~15 位 × 各 1 名 計 15 名  
 ② 2011 世界選手権エリート個人 TT 1~10 位 × 各 1 名 計 10 名 合計 25 名

**[トラックレース]** 総数 188 名 (当該年中に達する年齢: 18 歳以上) (2010~12 オリンピック・トラック・ランキング者)

2010~12 オリンピック・トラックランキング (2012/4/8 付) による。対象大会は下記の①~③。

① アジア選手権 (直近 2 回) ② 2010~2011, 2011~2012 トラックワールドカップ ③ 2011・2012 世界選手権エリート

	チームスプリント	スプリント	ケイリン	団体追抜	オムニアム	総数	1国あたり		チームスプリント	スプリント	ケイリン	団体追抜	オムニアム	総数	1国あたり
■ 男子総数	10(30)	8	8	10(40)	18	104	9	□ 女子総数	10(20)	8	8	10(30)	18	84	7
アジア最多数	2	2	2	2	5			アジア最多数	2	2	2	2	5		

※ 各種目とも 1 カ国あたり最多 1 名 (チーム)

※ チームスプリント出場国は個人種目 (スプリント・ケイリン) の参加資格を得る

伊藤超短波の製品が  
日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。  
医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに  
伊藤超短波の治療器が活躍しています。



**AT-mini**

AT ミニ ポータブル 低周波治療器

低周波治療器  
管理医療機器 (特定保守管理医療機器)  
医療機器認証番号 220AABZX00344A01  
※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください

**50g**

超軽量

**12時間**

連続使用

**3** COMB / PAIN / CARE

つの治療モード

鎮痛・治療

- COMB (鎮痛+治療) ALLタイムケア: トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN (鎮痛) ONタイムケア: トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE (治療) OFFタイムケア: 移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造  
販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3-3 www.itolator.co.jp

メディカル事業部

本社: 〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15  
TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

**[マウンテンバイク]** 総数 80 名 (当該年中に達する年齢: 19 歳以上)

## ■ 男子 (1 カ国あたり最多 3 名)

- ① オリンピック・ランキング\*<sup>1</sup> 1~5 位 × 各 3 名、6~13 位 × 各 2 名、14~24 位 × 各 1 名 計 42 名  
 ② 2011 アジア・アフリカ・アメリカ・オセアニア選手権 1~2 位 × 各 1 名 計 8 名 合計 50 名

## □ 女子 (1 カ国あたり最多 2 名)

- ① オリンピック・ランキング\*<sup>1</sup> 1~8 位 × 各 2 名、9~18 位 × 各 1 名 計 26 名  
 ② 2011 アジア・アフリカ・アメリカ・オセアニア選手権 1 位 × 各 1 名 計 4 名 合計 30 名

\*1 オリンピックランキング: 2011 年 5 月 23 日付と 2012 年 5 月 23 日付の国ランキングの結合。(個人ランキング上位 3 名の総和)

**[BMX]** 総数 48 名 (当該年中に達する年齢: 19 歳以上)

## ■ 男子 (1 カ国あたり最多 3 名)

- ① BMX ランキング\*<sup>2</sup> 1~5 位 × 各 3 名、6~8 位 × 各 2 名、9~11 位 × 各 1 名 計 24 名  
 ② 2012 世界選手権 1~6 位 × 各 1 名 計 6 名  
 ③ 三者枠、主催枠 各 1 名 計 2 名 合計 32 名

## □ 女子 (1 カ国あたり最多 2 名)

- ① BMX ランキング\*<sup>2</sup> 1~4 位 × 各 2 名、5~7 位 × 各 1 名 計 11 名  
 ② 2012 世界選手権 1~3 位 × 各 1 名 計 3 名  
 ③ 三者枠、主催枠 各 1 名 計 2 名 合計 16 名

\*2 BMX ランキング: 2010 年 5 月 6 日~2012 年 5 月 28 日の BMX ランキング個人ランキング上位 3 名

**2010 年ロード世界選手権  
日本代表選手団**

大会名 2010 年ロード世界選手権大会  
 開催場所 オーストラリア・メルボルン  
 大会期間 2010 年 9 月 29 日~10 月 3 日  
 派遣期間 2010 年 9 月 27 日~10 月 4 日  
 代表選手団

監督 高橋 松吉  
 (JCF 強化コーチ)

メカニック 鬼原 積  
 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 石田 宗男  
 (JCF 強化スタッフ)

選手

**男子 TTT** 新城 幸也  
 (沖縄・Bbox プイグ・テレコム)  
 別府 史之  
 (JPCA・チームラジオシャック)  
 土井 雪広  
 (山形・スキル・シマノ)

**男子 U23** 小森 亮平  
 (広島・ヴァンデU)  
 平塚 吉光  
 (静岡・シマノレーシング)  
 内間 康平  
 (沖縄・鹿屋体育大学)

**女子 TTT** 萩原麻由子  
 (大阪・  
 サイクルベースあさひレーシング)

**第 16 回アジア競技大会 (2010/ 広州) 日本代表候補選手団**

大会名 第 16 回アジア競技大会 (2010/ 広州) 自転車競技  
 開催場所 中華人民共和国・広州  
 大会期間 2010 年 11 月 15 日~25 日  
 (トラック) 11 月 15 日~19 日 (MTB) 11 月 20 日  
 (BMX) 11 月 21 日 (ロード) 11 月 22 日~25 日  
 派遣期間 2010 年 11 月 11 日~28 日  
 代表選手団

監督 折本 裕樹 (JCF 専任コーチ)

コーチ 高橋 松吉・吉井 功治 (JCF 強化コーチ)  
 西井 匠 (JCFMTB 強化コーチ)・宮城 力 (JCFBMX 強化コーチ)

メカニック 鬼原 積・森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史・石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)

ドクター 小林 裕幸 (JCF 医科学スタッフ)

総務 林 富士夫・山田 克彦 (JCF 事務局)

選手

<トラック> 成田 和也・渡邊 一成・新田 祐大 (JPCA・福島)  
 浅井 康太 (JPCA・三重)・北津留 翼 (JPCA・福岡)  
 西谷 泰治・盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)  
 脇本 雄太 (JPCA・福井)・佐々木 龍 (神奈川・早稲田大学)  
 元砂 勇雪 (奈良・鹿屋体育大学)  
 沼部早紀子 (静岡・マットベローチェ ARIAKE)  
 前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)  
 萩原麻由子 (大阪・サイクルベースあさひレーシング)  
 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

<MTB> 山本 幸平 (北海道・チームプリヂストン・アンカー)

平野 星矢 (長野・チームプリヂストン・アンカー)

片山 梨絵 (神奈川・SPECIALIZED)

矢沢みつみ (山梨・Team corrateg)

<BMX> 阪本 章史 (大阪・Un Authorized)・三瓶 将廣 (神奈川・RED LINE)

三輪 郁佳 (広島・Free Agent伯和)・飯端 美樹 (大阪・STAATS JAPAN)

<ロード> 宮澤 崇史 (長野・TEAM-NIPPO)・鈴木 真理 (JPCA・シマノレーシング)

萩原麻由子 (大阪・サイクルベースあさひレーシング)

西 加南子 (千葉・LUMINARIA)

# ツール・ド・ラビティビ 2010

## 六峰が第6ステージで3位入賞



7月17日(土) 14:30に成田空港へ集合し、ジュニアナショナルチームのロード遠征が始まった。17:50に成田空港を離れ、14時間かけて、モントリオールに到着。ホテルへのチェックインが23:00近くになり、そのまま解散した。翌日も移動であったが、主催者が17:00にホテルへ迎えに来るということなので、2時間程度のロードトレーニングに出発した。どの選手も時差の影響を感じさせないような走りであった。主催者のバスによりレース宿泊先に移動、到着したのは深夜1:00であり、この時間から日本チームに与えられている部屋での机、ベッド等の配置換えを行い、就寝となった。翌日、自転車を組み上げて、軽くロードトレーニングに出発。昨年もこの大会に参加したスタッフ(柿木)がいたため、ロードコースの試走がスムーズに行われた。夕方から街の中で、チーム紹介や地元スポンサーとの記念撮影が行われた。今年の日本チームのスポンサーは昨年に引き続き、DESSAUであった。

第1ステージは94.6km。約70km地点から日本チームが、積極的に集団の前方を引き始めた。残り距離を考えるとやや早すぎるのではと思いながらも、ジュニアの試合では無線が使えずチームカーからは指示は出せない。そのまま選手に状況判断を任せるしかない。残り約10km、1周3.3kmの周回が始まった。最終コーナーを3番手あたりで通過してくる六峰の姿が見えるが、その他のサポートがいない状

態。スプリントするも届かず4位。今回のレース後、集団コントロールをするタイミングが早すぎたことなど、多くの修正すべき箇所を選手たちが見つけ出していた。

第2ステージ105.8km。朝から最悪の雨。しかし、スタートごろには小雨になり、気温も22度とさほど暑くはない。スタート直後に本日も落車があったが、日本人選手は昨日のミーティングどおり全員が前にいて回避。約60kmの地点で、カナダとアメリカナショナルチームを含む6名の逃げ集団が出来上がった。最大1分ほど差は開くもののそのまま維持。先頭集団に選手を送りこめなかった日本チームが、集団の先頭に出てペースアップ。85km地点で清水と中里が落車、中里は自力で集団に追いついた。一方、清水は落車時に胸部を痛め、自転車をようやく漕げる感じであった。先頭集団は3名になり、昨日と同じ周回コースへ突入。このまま2名が逃げ切り。昨日の失敗を活かし今日はと思ったが、またもや六峰が一人でスプリントをかけるしかない状態で4位。

第3ステージは炭鉱のトンネルからスタートする、14.5km個人タイムトライアル。個人TTトップ選手は20分19秒と、驚異的な走りを見せた。早い選手たちは約5%程度の登りであっても、ポジションを崩さずに走行できる体幹の安定性と、下りになってもペダルを踏み続ける脚力がある。一方日本人は登りの頂上付近で立位になる選手が現れるなど、緩やかな登りで座位のままスピードを維持する能力に欠ける。チームTTや個人TTに繋がる、座位のままどんな地形でも、一定ペースで走りきるペース走を行うことの重要性を感じた。

第4ステージはTT後、17:00スター

トの52.2km。約15km地点から4人の逃げ集団ができ、そこに7人の選手が追いつき、11人の逃げが決まる展開であった。この逃げ集団に日本人は、誰も乗れなかったことが残念であった。約40km地点でメイン集団と逃げ集団のタイム差は19秒まで縮まるものの、そこから一気に追いつくことが出来ないままゴールスプリントになった。タイム差が縮まった段階で、ゴールスプリント勝負が出来るようなメンバー構成にした日本チームが、一気に追いつきスプリント勝負に備えてほしかったが、レース後選手たちに話を聞くと、追い上げるときに脚を使い過ぎ、そこでもたなかったとのことであった。

第5ステージは115.4km、16:30雨の中レースはスタート。前半から逃げを打つ選手が多かったが、なかなか決まらない。約80km付近で横谷が落車。さらに約90km付近の路上にオイルがまかれていたため集団落車が起り、ほとんどの選手が落車した。日本チームはここで長瀬と横谷が落車。さらに200m先で今度は六峰が落車と、このステージは落車に悩まされた。その後、ゴール6km手前までニュートラルカーが入り、最後のゴール勝負になった。

第6ステージ86.8km。本日も小雨の中、いつものゴール地点がスタート地点となるクリテリウムがスタートした。コーナーが多く雨のため落車がいつ起こるかかわからない状況なので、スタッフの判断で清水にはレースをキャンセルさせた。他のメンバーは日々の落車に巻き込まれてはいるが、レースをこなすたびに集団の中での動きが良くなってきている。前半、中里が6名で逃げ始めるも集団に戻されたりと、各チームがそれぞれ逃げを試みるが決まらずに淡々とレースが進んでいった。ラスト5kmあたりからリーダージャージを着たMortonが、単独で逃げ切り優勝。本日のゴールスプリントは、またも日本チームの隊列が出来上がらず、六峰がアメリカチームの後から仕掛け、チーム最高順位の3位。ようやく、表彰台まで届いた。

第7ステージ114.6km。曇り空の



中、レースがスタート。このコースは、横風と向かい風がきつい。スタート20km後、横風が始まった途端に集団は縦一列になり、力のない選手がこぼれ落ちていくような展開になった。さらに20名程度の逃げ集団が形成され、日本チームからは中里がこの集団に入った。この集団は総合20位以内の選手が18名程度含まれ、後続に対しみるみるタイム差を広げた。周回に入ってから各チームアタックをかけるも長くは続かずに向かい風の中ゴールスプリントとなり、中里は10位。本人はラスト1kmで他の選手とぶつかり、足を止めてしまったときに集団の後になってしまい失敗した、と悔しがっていた。

本遠征において、落車によりダウンチューブが割れてしまうという事態が2回あった。軽いカーボンフレームを多くの選手は使いたがるのかもしれないが、ステージレースは最後まで走りきらないと翌日のレースへの出場権がなくなる。ジュニアロード遠征に限ってはスペア部品に制限があるため、予備フレームを持参することは出来ないことを、選手と指導者および保護者の方々には理解してほしい。落車や移動中のフレームの破損によってスタート

### 【競技結果】

#### ツール・ド・ラビティビ2010 (UCI MJ-2Ncup) (2010/7/20-25 カナダ・ケベック)

##### 個人総合成績

1	MORTON Lachlan Holowesko	13:41:38
2	FRANCK Eamon Specialized	13:42:37
3	NOONAN Zack Dual	13:42:54
17	中里 仁 埼玉 小松原高	13:44:28
29	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	13:51:12
36	一丸 尚伍 大分	13:51:40
82	六峰 亘 大分	14:04:45
93	横谷 直人 大分 日出暘谷	14:11:58

##### 団体総合成績

1	Team Holowesko Partners	41:08:44
2	Nouvelle-Zélande	41:09:14
3	USA National Team	41:10:38
7	日本	41:25:03

##### 第1ステージ (94.6 km)

1	JLABERGE James Specialized	2:12:54
2	DESHAIES Jean-Samuel Canada	2:12:54
3	NADON Philippe Québec	2:12:54
4	六峰 亘 大分	2:12:54
42	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	2:12:54
82	一丸 尚伍 大分	2:13:18
83	中里 仁 埼玉 小松原高校	2:13:25
86	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	2:14:14
138	横谷 直人 大分 日出暘谷高	2:30:24

##### 第2ステージ (105.8km)

1	LOGAN Craig Canada	2:20:11
---	--------------------	---------

が出来なくなる可能性を考えると、クロモリもしくはアルミフレームでの遠征参加のほうが、多くのトラブルを回避できると思われる。今回の遠征に持参したアンカーのスペアバイクが、六峰のフレームとほぼ同サイズであったため、翌日彼はメカニックの協力のもと、このスペアバイクで3位入賞することができた。他のアンカーフレームを利用している選手たちもレース中多くの落車に巻き込まれたが、フレームが壊れて走れなくなることはなかった。軽いフレームを使用するか、丈夫なフレームを使用するかは個人の自由なのかもしれないが、今回の事態は選手およびスタッフ一同、衝撃的な出来事であった。

最後に、このレースは学校の施設をホテル代わりに使用し、食事はすべて学校の食堂、スタッフのほとんどが学生ボランティアの中で開催される。したがって、レース中の交通整理なども、食堂にいたスタッフが行っていること

もあった。日本チームは長年このレースに参加しているため、現地観客や主催者の協力により、非常に活動が行いやすかった。一方で、チームとしてのまとまりがやや不足していた。個々の選手が強いことがもっとも大切であるが、日本ジュニアチームとしてネーションズポイントを獲得に行くためには、個の力だけではなくチームの力を利用しなければ、海外の選手たちとは戦えない。個々の力の向上、チームワーク、独走力の強化と課題は山積みだが、今後も未来ある選手たちのために多くのバックアップを行っていききたい。(JCF強化コーチ 佐藤孝之)

#### ツール・ド・ラビティビ2010日本代表選手団

大会名	ツール・ド・ラビティビ2010 (UCI MJ-2Ncup)
開催場所	カナダ・ケベック州
大会期間	2010年7月19日～25日
派遣期間	2010年7月17日～28日
代表選手団	
監督	佐藤 孝之 (JCF強化コーチ)
コーチ	柿木 孝之 (JCFジュニア強化育成部会員)
メカニック	山脇 靖宏 (JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
選手	長瀬 幸治 (埼玉・栄北高校) 六峰 亘 (大分) 中里 仁 (埼玉・小松原高校) 横谷 直人 (大分・日出暘谷高校) 清水 太己 (東京・プリヂストン・エスポワール) 一丸 尚伍 (大分)

2	CARPENTER Robin Team Dual	2:20:13
3	SWEDBERG Benjamin USA	2:20:34
4	六峰 亘 大分	2:20:34
15	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	2:20:34
65	一丸 尚伍 大分	2:20:34
85	中里 仁 埼玉 小松原高校	2:20:34
89	横谷 直人 大分 日出暘谷高	2:20:34
140	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	2:40:01

##### 第3ステージ (14.5km)

1	MORTON Lachlan Holowesko	20:20
2	FRANCK Eamon Specialized	21:03
3	NOONAN Zack Team Dual	21:17
27	中里 仁 埼玉 小松原高校	20:20
40	横谷 直人 大分 日出暘谷高校	22:38
41	一丸 尚伍 大分	22:38
44	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	22:44
56	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	23:01
74	六峰 亘 大分	23:26

##### 第4ステージ (52.2km)

1	PETERSON Colt USA	1:06:10
2	WICHANA Jukrapech Thaïlande	1:06:10
3	TURNER Edison DIY Music	1:06:10
22	一丸 尚伍 大分	1:06:46
64	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	1:06:46
73	中里 仁 埼玉 小松原高校	1:06:46
93	横谷 直人 大分 日出暘谷高	1:06:46
102	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	1:06:46
136	六峰 亘 大分	1:10:58

##### 第5ステージ (115.4km)

1	SWEDBERG Benjamin USA	2:48:13
2	FARINHA Daniel USA	2:48:13
3	BROCHU Jordan Québec	2:48:13
37	一丸 尚伍 大分	2:48:13
60	中里 仁 埼玉 小松原高校	2:48:13
79	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	2:48:13
94	横谷 直人 大分 日出暘谷高	2:48:13
120	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	2:48:13
130	六峰 亘 大分	2:57:47

##### 第6ステージ (86.8km)

1	MORTON Lachlan Holowesko	2:02:41
2	SWEDBERG Benjamin USA	2:02:50
3	六峰 亘 大分	2:02:50
45	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	2:02:50
47	一丸 尚伍 大分	2:02:50
82	中里 仁 埼玉 小松原高校	2:02:50
113	横谷 直人 大分 日出暘谷高	2:06:57
	清水 太己 東京 BS イスホ°ワール	DNS

##### 第7ステージ (114.6km)

1	NADON Philippe Québec	2:50:20
2	SMITH Dion N-Zélande	2:50:20
3	SWEDBERG Benjamin USA	2:50:20
10	中里 仁 埼玉 小松原高校	2:50:20
28	六峰 亘 大分	2:50:20
33	横谷 直人 大分 日出暘谷高	2:50:26
36	長瀬 幸治 埼玉 栄北高校	2:57:11
48	一丸 尚伍 大分	2:57:21

# 平成 22 年度全国高等学校総合体育大会

総合は岐南工業高校が制す!

7月29日、沖縄県やんばる特設ロードコース(名護市、国頭村、大宜味村、東村)において、平成22年度全国高等学校総合体育大会自転車競技ロード競技、第55回全国高等学校自転車競技ロード競走中央大会が開催された。

午前8時30分のスタート時刻にあわせたような豪雨の中、115.5kmの個人ロードレースが140名の選手でスタートした。海岸線の道路で追い風になり、良いペースでレースは進行し、時折アタックが繰り返されるが、なかなか逃げが決まらない。最終関門の源河を過ぎたあたりで40名弱の集団となり、その後もアタックが繰り返され、最後は10名でのゴール勝負となったが僅かの差で小橋(松山工)が制し、2位は石橋(青森山田)、3位は中田(和歌山北)となった。

7月30日から沖縄県総合運動公園自転車競技場に会場を移し8月1日までの3日間、平成22年度全国総合体育大会自転車競技大会トラック競技、秩父宮杯第61回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会が開催された。

初日、雷注意報のため、朝の指定練習を中止したが、競技は予定通り実施され、2日目も時々スコールの様な雨が降り、若干の競技中断があったが予定通り実施された。3日目は好天に恵まれ、やっと沖縄らしい暑さとなった。

1kmタイムトライアルの大西(日出陽谷)、3km個人追抜の黒瀬(岡山工)、スプリントの坂本(作新学院)の3選手は前評判どおりの強さを発揮し、それぞれの種目を制した。そして、1年生でケイリンを制した清水(誠英)の勝負強い走りには驚かされた。

また、団体2種目は予選タイム2位の学校(T.S.作新学院、T.P.岐南工)が決勝でそれぞれ逆転勝ちし、素晴らしい走りを披露してくれた。

学校対抗では、岐南工が28点で総合優勝を飾った。2位から4位の学校は3校とも団体種目の決勝に進んだ岡山工、作新学院、八戸工であった。

また、本年度も女子エキシビジョンレースが実施され14名の女子選手がケイリン、スクラッチ、チームスプリント、チームパーシュートに参加して大会を盛り上げた。(井上 正継)



ロードレースのフィニッシュ



団体追抜優勝の岐南工業高校



エキシビジョンの女子ケイリン



**【競技結果】**

平成 22 年度全国高等学校総合体育大会  
(2010/7/29-8/1 沖縄・名護他/北中城)

**総合成績**

- 1 岐南工業高校 岐阜 28 点
- 2 岡山工業高校 岡山 23 点
- 3 作新学院高校 栃木 21 点

**男子個人ロードレース**

- 1 小橋 勇利 愛媛 松山工高 3:05:41.3
- 2 石橋 学 青森 青森山田 3:05:41.8
- 3 中田 瑛次 和歌山 和歌山北 3:05:41.8
- 4 池部 壮太 大分 別府商高 3:05:42.0
- 5 佐々木勇輔 埼玉 早大本庄 3:05:42.3
- 6 馬場 博之 福岡 祐誠高校 3:05:42.4
- 7 羽根田将直 愛知 杜若高校 3:05:43.4
- 8 城田 大和 沖縄 北中城高 3:05:43.5
- 9 帖地 森 京都 北桑田高 3:05:43.6
- 10 横田 潤 沖縄 美来工科 3:05:43.9

**男子スプリント**

- 1 坂本将太郎 栃木 作新学院高校
- 2 武藤 稔征 岐阜 岐阜第一高校
- 3 田中 誇士 静岡 伊豆総合高校
- 4 木村 幸希 広島 広島市工業高校
- 5 小川真太郎 徳島 小松島西高校
- 6 廣田 敦士 三重 暁高校

**男子1km タイムトライアル**

- 1 大西 貴晃 大分 日出暁谷 1:07.650
- 2 戸田 康平 香川 石田高校 1:08.112
- 3 新山 響平 青森 八戸工高 1:08.931

- 4 江端 隆司 福井 春江工高 1:09.059
- 5 沼田 明久 山梨 甲府工高 1:09.176
- 6 多田 晃紀 岡山 岡山工高 1:09.192

**男子ケリソ**

- 1 清水 裕友 山口 誠英高校
- 2 吉川 嘉斗 徳島 小松島西高校
- 3 荒居 翔太 茨城 取手一高校
- 4 西嶋 敬太 福井 春江工業高校
- 5 小酒 大勇 福島 平工業高校
- 6 森田賢多郎 佐賀 龍谷高校

**男子3km 個人追抜競走**

- 1 黒瀬 耕平 岡山 岡山工高 3:33.968
- 2 近谷 涼 富山 氷見高校 3:35.803
- 3 矢野 智哉 岐阜 岐南工高 3:39.391
- 4 坂本 周作 青森 八戸工高 3:43.015
- 5 加賀谷慶治 秋田 能代西高 3:40.874
- 6 深瀬 泰我 静岡 伊豆総合高 3:40.884

**男子4km 速度競走**

- 1 橋本 英也 岐阜 岐南工高 4:44.499
- 2 秋田 龍 青森 青森山田高校
- 3 高士 拓也 三重 朝明高校
- 4 瀬戸 栄作 長崎 鹿町工業高校
- 5 坂本 聖弥 山梨 甲府工業高校
- 6 久保田元気 福島 学法石川高校

**男子4km 団体追抜競走**

- 1 岐南工業高 矢野・市原・橋本・中村 4:31.229
- 2 岡山工業高 黒瀬・片岡・多田・奥村 4:32.522
- 3 学法石川高 久保田・我妻・緑川・鈴木 4:34.577
- 4 和歌山北高 北村・谷口・二神・宇根 4:41.503

- 5 昭和一学園 谷口・西川・伊藤・鈴木 4:43.251
- 6 鹿町工業高 原田・吉元・白浜・瀬戸※ 4:45.329

**男子スクラッチ**

- 1 北村 彰也 和歌山 和歌山北 10:56.427
- 2 大倉 勇夢 大阪 茨木工科高校
- 3 有馬 尚輝 熊本 秀岳館高校
- 4 馬場 博之 福岡 祐誠高校
- 5 緑川 竣一 福島 学法石川高校
- 6 内藤 光平 山梨 石和高校

**男子ポイントレース (24km)**

- 1 岩指 翔大 奈良 奈良北高校 17p
- 2 山本 隼 山梨 甲府工業高校 16p
- 3 徳田 鍛造 京都 北桑田高校 15p
- 4 山本 洋平 静岡 伊豆総合高校 11p
- 5 面手 利輝 神奈川 横浜高校 8p
- 6 中村 隼大 岐阜 岐南工業高校 8p

**男子チームスプリント (8km)**

- 1 作新学院 坂本・田中・西村 1:05.878
- 2 八戸工高 新山・坂本周・坂本佳 1:06.618
- 3 石田高校 戸田・村上・水口 1:06.618
- 4 春江工高 江端・西嶋・野原 1:07.178
- 5 誠英高校 柴崎・清水・安本 1:07.098
- 6 朝明高校 金海・高士・谷口 1:07.112

**女子ケリソ第1組《Iキゾビシヨソ》**

- 1 丸田 京 東京 共立女子第二高校
- 2 中村 妃智 千葉 千葉経大附属高校
- 3 樋口 晴香 福島 白河実業高校

**女子ケリソ第2組《Iキゾビシヨソ》**

- 1 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実業高校
- 2 下久保初菜 京都 北桑田高校
- 3 青木志都加 京都 北桑田高校

**女子スクラッチ (6 km) 《Iキゾビシヨソ》**

- 1 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実業高校
- 2 小城 千奈 福岡 祐誠高校
- 3 青木志都加 京都 北桑田高校

**女子チームスプリント《Iキゾビシヨソ》**

- 1 東北 藤根・樋口 52.270
- 2 関東 丸田・中村 52.469
- 3 選抜A 小城・合田 54.361

**女子3km 団体追抜競走《Iキゾビシヨソ》**

- 1 選抜C 神田・神庭・岩出 4:08.493
- 2 北桑田高 岩田・下久保・青木 4:18.678

日本航空 Dream Skyward. **JAL**

世界の空でお会いしましょう。

www.jal.co.jp

## 2010 UCI BMX 世界選手権大会

チャンピオンクラス、決勝進出ならず



7月29日から8月1日まで今年度の世界チャンピオンを決定する「2010年BMX世界選手権大会」が南アフリカ・ピーターマリッツバーグにて開催された。48の国と地域から約900名が参加し、年代では5歳から60歳代まで幅広く参加している。日本からはチャンピオンシップクラスに9名と年齢別のチャンレジクラスに13名の選手が参加した。

チャンピオンシップクラスでは、男子エリートの阪本章史（北京五輪出場）、松下翼と男子ジュニアの古幡陵介の3名が公式練習中に転倒により残念ながら欠場となった。ワールドカップスーパークロス同様に予選にタイムトライアルが採用された。2009・2010年全日本チャンピオンの三瓶将廣は、決勝トーナメントに進出するが1/8決勝で敗退。同じく高橋堅太も1/8決勝敗退となった。女子エリート

の三輪郁佳（広島）も決勝トーナメントに進出するが1/4決勝で敗退した。

またジュニア男子に出場した三瓶貴公と吉村樹希敢は予選を通過し決勝トーナメントに進出したが、三瓶貴公は1/8決勝で敗退。吉村樹希敢は1/4決勝へ進出したが、あと一歩及ばず敗退した。またクルーザークラスにも出場した三瓶貴公は1/2決勝で敗退、決勝進出にはならなかった。

チャレンジクラスでは、丹野夏波（10歳ガールズ）が中国大会、オーストラリア大会と続き3連覇を飾り、榊原爽（11歳ガールズ）も優勝を果たすなど男子も4名が決勝に進出しチャレンジクラスの活躍が目立った。

## 【競技結果】

2010年BMX世界選手権大会  
(2010/7/29-8/1 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ)

男子エリート  
1 STROMBERGS Maris LAT 38.391

2 NHLAPO Sifiso RSA 38.878  
3 DAUDET Joris FRA 39.077  
三瓶 将廣 JPN 神奈川 1/8 敗退  
高橋 堅太 JPN 岡山 1/8 敗退  
高山祐次郎 JPN 埼玉 TT 不通過  
阪本 章史 JPN 大阪 DNS  
松下 翼 JPN 神奈川 DNS

## 女子エリート

1 READE Shanaze GBR 38.819  
2 WALKER Sarah NZL 39.915  
3 POST Alise USA 40.443  
三輪 郁佳 JPN 広島 1/4F 敗退

## 男子ジュニア

1 ANDRE Sylvain FRA 38.822  
2 LEJINS Kristers LAT 39.834  
3 Van GENDT TwanNED 40.229  
吉村樹希敢 JPN 大阪 1/4F 敗退  
三瓶 貴公 JPN 神奈川 1/8F 敗退  
古幡 陵介 JPN 埼玉 DNS

## 女子ジュニア

1 Van BENTHEM MerleNED 40.946  
2 CRAIN Brooke USA 41.104  
3 McLEOD MelindaAUS 41.604

## クルーザー-男子エリート

1 REZENDE Renato BRA 39.518  
2 JIMINEZ CAICEDO Andres COL 39.713  
3 OQUENDO ZABALA Carlos COL 39.790

## クルーザー-女子エリート

1 PAJON Mariana COL 39.421  
2 LABOUNKOVA RomanaCZE 40.178  
3 RIMSAITE Vilma LTU 40.583

## クルーザー-男子ジュニア

1 OQUENDO ZABALA DavidCOL 45.014  
2 CLARKE BenjaminAUS 55.122  
3 FRANKS Daniel NZL 1:01.495  
三瓶 貴公 JPN 神奈川 1/2F 敗退

## クルーザー-女子ジュニア

1 O'KEEFFE Teagan RSA 42.381  
2 le ROUX Enora FRA 43.586  
3 QUINALHA Bianca BRA 43.748



## 2010年BMX世界選手権 日本代表選手団

大会名 2010年BMX世界選手権大会  
開催場所 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ  
大会期間 2010年7月29日～8月1日  
派遣期間 2010年7月24日～8月3日  
代表選手団

監督 マーティン・ウォード（JBMXF 副会長）  
コーチ 宮城 力（JBMXF コーチ）  
メカニック 光武 正勝（JBMXF 強化スタッフ）  
マッサージ 小室 雅俊（JBMXF 強化スタッフ）  
総務 戸川 祐一（JBMXF 強化スタッフ）  
選手 高山祐次郎（埼玉）・高橋 堅太（岡山）  
松下 翼（神奈川）・三瓶 将廣（神奈川）  
阪本 章史（大阪）・三輪 郁佳（広島）  
吉村樹希敢（大阪）・三瓶 貴公（神奈川）  
古幡 陵介（埼玉）

# 競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

## 第51回全日本学生選手権自転車競技大会 (2010/7/3-4 長野・松本 かりがね競技場)

### 男子ロード

- 1 新納 大輝 鹿嶋 鹿屋体育大学
- 2 橋本 凌甫 東京 日本大学
- 3 石口 慶多 兵庫 立命館大学
- 4 古庄 豊全 熊本 日本大学
- 5 飯塚 力也 山梨 順天堂大学
- 6 佐々木 海 宮城 明治大学

### 男子1kmタイムトライアル

- 1 石川 雄太 秋田 順天堂大 1:06.492
- 2 野口 大誠 熊本 中央大学 1:06.889
- 3 池野 健太 兵庫 中央大学 1:07.321
- 4 奥原 亨 神奈川 中央大学 1:07.904
- 5 澤口 大和 宮城 早稲田大 1:08.409
- 6 野村 匡仁 埼玉 日本体大 1:08.440

### 男子ケイリン

- 1 今井 一誠 東京 早稲田大学
- 2 牧野 翔太 秋田 東北学院大学
- 3 市山 研 神奈川 明治大学
- 4 和田 拓磨 茨城 明治大学
- 5 巴 直也 神奈川 中央大学
- 6 野口 正則 奈良 鹿屋体育大学

### 男子4km個人追抜競走

- 1 橋本 龍弘 福島 日本大学 4:55.012
- 2 郡司 昌紀 埼玉 中央大学 4:58.589
- 3 武田 直也 新潟 朝日大学 4:53.255
- 4 山地 大介 香川 順天堂大学 4:54.132
- 5 坂本 健介 青森 日本大学 4:57.364
- 6 石田 正樹 青森 中央大学 4:57.403

### 男子スクラッチ

- 1 出澤 拓也 神奈川 明治大学
- 2 三浦 康嵩 青森 早稲田大学
- 3 田淵 圭 東京 早稲田大学
- 4 小野寺圭佑 青森 東北学院大学
- 5 元砂 海人 大阪 環太平洋大学
- 6 福留 康介 高知 環太平洋大学

### 男子ポイントレース(40km)

- 1 入部正太郎 奈良 早稲田大学 35p
- 2 木守 望 和歌山 京都産業大学 34p
- 3 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育大学 24p
- 4 越海 誠一 大分 日本大学 24p
- 5 窪木 一茂 福島 日本大学 19p
- 6 堀内 俊介 神奈川 中央大学 12p

### 男子タイムトライアル

- 1 中央大学 巴・石田
- 2 順天堂大学 井手・木村
- 3 朝日大学 尾形・松本
- 4 朝日大学 吉田匡・吉田幸
- 5 鹿屋体育大学 江夏・小林
- 6 東京大学 森泉・宮崎

### 男子マウンテンバイク

- 1 早稲田大学 佐々木・三浦 (+1) 15p
- 2 中京大学 中根・榎原 (+1) 14p
- 3 環太平洋大学 小村・酒井 9p
- 4 日本大学 猪瀬・大庭 5p
- 5 京都産業大学 山森・吉岡 (-1) 10p
- 6 明治大学 市山・笠原 (-1) 6p

### 女子500mタイムトライアル

- 1 前田佳代乃 鹿嶋 鹿屋体育大 35.871
- 2 田中 まい 千葉 日本体育大 38.908
- 3 野村くるみ 石川 北陸大学 39.050
- 4 小島 蓉子 千葉 日本体育大 39.625
- 5 古河 麻美 福島 日本体育大 39.669
- 6 廣本 茜梨 大分 環太平洋大 41.026

### 女子ロード

- 1 前田佳代乃 鹿嶋 鹿屋体育大学
- 2 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学
- 3 古河 麻美 福島 日本体育大学
- 4 廣本 茜梨 大分 環太平洋大学
- 5 山田 まい 山梨 日本体育大学
- 6 森 沙耶香 大分 朝日大学

### 女子3km個人追抜競走

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体大 3:57.829
- 2 田中 まい 千葉 日本体大 4:05.087
- 3 川又 千裕 鹿嶋 鹿屋体大 4:07.601
- 4 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 4:12.068
- 5 近藤 美子 愛知 鹿屋体大 4:09.551
- 6 木村 亜美 鹿嶋 鹿屋体大 4:09.648

### 女子ポイントレース(16km)

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学 26p
- 2 木村 亜美 鹿嶋 鹿屋体育大学 18p
- 3 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学 16p
- 4 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 12p
- 5 田中 まい 千葉 日本体育大学 7p
- 6 川又 千裕 鹿嶋 鹿屋体育大学 1p

## 第9回全日本実業団サイクルロードレース in 石川 (2010/7/18 福島・石川)

### 男子TR(115.8km)

- 1 佐野 淳哉 TEAM NIPPO 3:05:07
- 2 宮澤 崇史 TEAM NIPPO 3:05:07
- 3 飯島 誠 プリザーストン・アンカー 3:05:41
- 4 平塚 吉光 シムルレーシング 3:05:41
- 5 鈴木 真理 シムルレーシング 3:06:57
- 6 中島 康晴 TEAM NIPPO 3:06:59
- 7 畑中 勇介 シムルレーシング 3:07:16
- 8 真鍋 和幸 マトリックスパワータグ 3:07:17
- 9 中村 誠 宇都宮ブリッツェン 3:07:19
- 10 鎌田 圭介 パールズミ・スタ 3:07:32

### 女子FR・ジュニア女子(40.8km)

- 1 西 加南子 LUMINARIA 1:16:16
- 2 金子 広美 イナーメ・アイラント 1:16:34
- 3 井上 玲美 日野自動車レーシング 1:20:37
- 4 西塚 優美 cicli HIDE 1:20:56
- 5 志村みち子 ラグニールあづみの 1:23:58
- 6 長屋 桃子 パルパレディス 1:24:00
- 7 釜下 裕子 Sakatani Racing 1:24:12
- 8 吉井 玲香 Vitesse 1:24:25

## 第7回全日本実業団サイクルロードレース in 小川 (2010/7/25 長野・小川)

### 男子TR(76.7km)

- 1 平塚 吉光 シムルレーシング 2:37:31

- 2 畑中 勇介 シムルレーシング 2:37:31
- 3 佐野 淳哉 TEAM NIPPO 2:37:57
- 4 真鍋 和幸 マトリックスパワータグ 2:39:27
- 5 森本 誠 イナーメ・アイラント 2:39:38
- 6 増田 成幸 TEAM NIPPO 2:40:36
- 7 柿沼 章 宇都宮ブリッツェン 2:41:48
- 8 西谷 雅史 オーベストデューティ 2:43:16
- 9 新井 剛 イナーメ・アイラント 2:43:50
- 10 中村 誠 宇都宮ブリッツェン 2:44:29

### 女子FR(24.5Km)

- 1 金子 広美 イナーメ・アイラント 1:09:43
- 2 西 加南子 LUMINARIA 1:10:02
- 3 福本 千佳 Ready Go Japan 1:11:30
- 4 西塚 優美 cicli HIDE 1:12:33
- 5 橋本みどり なるしまフレンド 1:13:14
- 6 野中 優子 TEAM YOU CAN 1:13:42
- 7 高島真希子 チームオーベスト 1:19:09
- 8 吉井 玲香 Vitesse 1:20:43

## MTB J1 白馬さのさかXCO#4 (2010/8/1 長野・白馬村)

### XCO男子リート(38.5km)

- 1 平野 星矢 長野 BSアンカー 1:37:29.24
- 2 辻浦 圭一 奈良 BSアンカー 1:39:34.26
- 3 山本 和弘 北海道 キャノンボール 1:40:42.11
- 4 松本 駿 長野 TREK 1:41:23.16
- 5 千田 尚孝 愛知 KHS 1:41:53.56
- 6 門田 基志 愛媛 GIANT 1:42:57.13
- 7 Cooper Dylan 兵庫 TREK 1:43:10.88
- 8 竹之内 悠 京都 Eurasia 1:43:20.88
- 9 齊藤 亮 長野 コテック 1:43:59.01
- 10 江下健太郎 福岡 over-do 1:44:55.86

### XCO女子リート(22.0km)

- 1 矢沢みつみ 山梨 1:07:47.66
- 2 田近 郁美 岐阜 GodHill 1:08:35.57
- 3 中込由香里 長野 SY-Nak 1:08:54.17
- 4 小林可奈子 長野 AKI Fact1 1:10:36.61
- 5 高橋 奈美 宮城 SEKI 1:18:13.49
- 6 重兼みゆき 愛媛 焼山鳥島 1:18:30.79
- 7 田崎 綾 千葉 Batavia 1:19:22.53
- 8 笹本 みき 山梨 Batavia 1:21:11.63
- 9 埜真 賢美 岡山 クルーズ 1:21:50.41
- 10 西尾 美子 愛媛 焼山鳥島 1:22:59.88

## ●強化指定選手等の追加

### <強化指定選手>

#### ロードレース・男子U23

海藤 稜馬  
(山形・エルドラード-TR)

#### ロードレース・女子エリート

明珍 裕子  
(岐阜・朝日大学)  
田畑 真紀  
(JPCA・ダイチ)

### <強化育成選手>

#### トラックレース中距離・男子エリート

西谷 泰治  
(愛知・愛三工業レーシング)

## 加盟団体だより (7)

## 広島県自転車競技連盟

連盟事務局：広島県広島市安佐南区東原 1-7-4-104 戸高様方  
082-874-5086 mailweb@hiroshima-cf.com

登録選手数：男子 96 名 女子 6 名

審判員数：男子 37 名 女子 3 名

主催大会：3月 西日本チャレンジロードレース

4・11月 県選手権トラックレース

5月 県ロードレース

10月 中国サイクルグランプリ

年間5戦 もみじサイクルロードレース

## 活動方針：

広島県自転車競技連盟の活動方針は「底辺拡大から、ヨーロッパで走れる選手まで」です。1994年に、1周12km余りのロードコースを有する広島県中央森林公園が本県にできた時から、本連盟の活動内容は劇的に変化しました。アジア大会をはじめ、全日本選手権、全国都道府県対抗自転車競技大会、国民体育大会等の大きな大会を続けて経験しました。その頃は大会を消化していくのが精いっぱいでした。大会を重ねるほど、選手の熱い走りを目の当たりにするほどに、「選手が育つ大会にしたい」という思いが出てきました。そこから、活動方針の「底辺拡大から、ヨーロッパで走れる選手まで」が生まれました。

今年で13回を迎えた全日本自転車競技選手権大会ロードレースですが、13回の歴史のうち、9回を広島県で開催しております。この全日本ロードを数多く開催させていただくことで「底辺拡大から、ヨーロッパで走れる選手まで」その思いは強くなってきました。

底辺拡大の大会として西日本チャレンジロードレース・中国サイクルグランプリがあげられます。西日本チャレンジロードレースは皆様のおかげで15回を数えるようになりました。「日本版『春を呼ぶレース』」として定着したと、自負しています。

昨年度から、ジュニアの育成を主眼に置いた「もみじサイクルロードレース」を始めました。年間5戦おこない、その総合ポイントを競い、年間チャンピオンを決定しようというシリーズ戦です。ロードレース、クリテリウム、タイムトライアル等、様々な形態のレースを複合させて開催しています。ヨーロッパのようにいつでもレースが行われている環境に少しでも近づければと願っています。嬉しいことに、



このレースに参加して実戦経験を積んだ選手たちが、今年のインターハイでも活躍しています。願いはこのレースを経験してヨーロッパで走る選手が生まれることです。

大会ではありませんが、広島競輪場で走行会をできる限り開催しています。経験のない人にも気軽にバンクを経験してもらいたいと思っています。(高橋 真)

これらのことは次HPをご覧ください。

広島県自転車競技連盟 <http://www.hiroshima-cf.com/>

もみじサイクルロードレース <http://ebii.jp/momiji/index.html>



## 2010年ジュニア世界選手権 日本代表選手団

大会名	2010年ジュニア世界選手権大会
開催場所	ロード イタリア・オッフイダ トラック イタリア・モンティチアリ
大会期間	ロード 2010年8月6日～8日 トラック 2010年8月11日～15日
派遣期間	ロード 2010年8月3日～11日 トラック 2010年8月6日～17日
代表選手団	
監督	坂井田米治 (JCFジュニア強化育成部会長)
コーチ	大野 直志 (JCFジュニア強化育成部会員)ロード担当 柿木 孝之 (JCFジュニア強化育成部会員)ロード担当 佐藤 孝之 (JCF強化コーチ)トラック担当 中田 将次 (JCFジュニア強化育成部会員)トラック担当
メカニック	山脇 靖宏 (JCFジュニア強化育成部会員支援スタッフ)
現地スタッフ	沖 美穂
選手	
<ロード>	長瀬 幸治 (埼玉・栄北高校) 福本 千佳 (大阪・Ready Go JAPAN)
<トラック>	一丸 尚伍 (大分) 伊藤 裕貴 (三重・日本競輪学校) 木村 弘 (青森・日本競輪学校) 黒枝 士揮 (大分・鹿屋体育大学) 大西 貴晃 (大分・日出暁谷高校) 坂本将太郎 (栃木・作新学院高校)

## 2010年マウンテンバイク世界選手権 日本代表選手団

大会名 2010年マウンテンバイク世界選手権大会

開催場所 カナダ・モンサンタン

大会期間 2010年8月31日～9月5日

派遣期間 2010年8月29日～9月7日

代表選手団

監督 西井 匠 (JCF強化コーチ)

選手

## ■クロスカントリー・オリンピック (XCO)

男子エリート 山本 幸平 (北海道・チームプリヂストン・アンカー)

斉藤 亮 (長野・TEAM CORRATEC)

武井 亨介 (茨城・FORZA・フォルツァ!)

平野 星矢 (長野・チームプリヂストン・アンカー)

松本 駿 (長野・TREK)

女子エリート 片山 梨絵 (神奈川・SPECIALIZED)

男子U23 竹之内 悠 (京都・Team EURASIA)

合田 啓祐 (香川・TEAM SPECIALIZED)

男子ジュニア 山本 兆 (北海道・ダンガリー)

女子ジュニア 岩出 愛未 (愛知・club SY-Nak)

## ■ダウンヒル (DHI)

男子エリート 永田 隼也 (神奈川・A&F/ROCKY MOUNTAIN)

青木 卓也 (東京・TEAM GIANT)

女子エリート 未政 実緒 (兵庫・FUNFANCY/INTENS)

飯塚 朋子 (大阪・team corrateg)

男子ジュニア 清水 一輝 (愛知・AKI FACTORY TEAM)

井本はじめ (兵庫・Transition Racing)

## ■フォークロス (4X)

永田 隼也 (神奈川・A&F/ROCKY MOUNTAIN)

## ■クロスカントリー・チームリレー (XCR)

今回出場選手により編成して参加

## 国内自転車競技場の紹介 (その7)



競技場名：倉吉自転車競技場  
 住所：鳥取県倉吉市桜字後口山 68-23  
 電話：0858-28-5441  
 周長：333.333m  
 幅員：ホーム 9.000m バック 9.000m  
 センター 7.500m  
 退避路幅員：5次曲線 2.000m  
 路面傾斜：(最大) 33°01'44"



## 連盟の動き (7月上旬～8月上旬)

- |       |                             |                           |
|-------|-----------------------------|---------------------------|
| 7月 7日 | 平成 22 年度第 4 回広報部会           | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 3 階     |
| 10日   | ロード強化合宿                     | 於：千葉・鴨川 (～7/17)           |
| 12日   | 平成 22 年度第 2 回強化委員会          | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階     |
| 17日   | ツール・ド・ラビティビ日本代表選手団出発        | 於：カナダ→帰国 7/28             |
| 20日   | トラック短距離強化合宿                 | 於：静岡・日本 CSC (～7/26)       |
| 22日   | 第 2 回 JCF 法人改革検討委員会         | 於：東京・日本自転車会館 2 号館 802 会議室 |
| 24日   | 2010 年 BMX 世界選手権大会日本代表選手団出発 | 於：南アフリカ→帰国 8/3            |
| 27日   | 平成 22 年度第 3 回常務理事会・選手強化本部会  | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階     |
| 31日   | トラック中距離強化合宿                 | 於：静岡・日本 CSC (～8/8)        |
| 8月 2日 | ジュニアトラック世界選事前強化合宿           | 於：静岡・日本 CSC (～8/5)        |
| 3日    | ジュニアロード世界選日本代表選手団出発         | 於：イタリア→帰国 8/11            |
| 6日    | ジュニアトラック世界選日本代表選手団出発        | 於：イタリア→帰国 8/17            |



夢への補助輪。 RING!RING!プロジェクト  
 —— 競輪の補助事業 ——



4X 男子優勝の永田



XCO 女子のスタート  
(先頭は優勝の片山)



XCO 男子エリート 1 周目の先頭 3 人 (中央が優勝の山本)

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.172 2010年8月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/井関康正

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>